

愛南広域班

目次

短期計画

- 5年後を想定したまず取り組むべき計画

長期計画

- 高速道路の開通を見据えた長期的な計画

地域住民とのコミュニケーション

- 計画を効果的なものにするための地域で行うべき取り組み

短期計画

短期計画は、現在の愛南町の居住地分布や土地利用、現在施行されている避難計画を前提としたときの災害リスクに基づいたものになっていて、発災から一時避難、二次避難から復興までの動線を強化する。

一時避難

津波一時避難場所への避難路の確保

津波浸水想定域を含む地域に対して、津波からの避難を想定し、高台へとつながる「〇〇通り」を設定する。

津波一時避難場所の機能を強化

現在津波一時避難場所ごとに設置されている「防災倉庫」の容量を増やす

- その集落の人が1週間程度過ごせるように
- 他の集落の人が指定避難所への移動中に滞在できるように

指定避難所への避難路の確保

- 道路が水没する恐れのあるところについては高台に平行した獣道を整備する

二次避難

- 御荘・城辺・一本松の指定避難所は現在指定された施設を活用する。
- 現状指定避難所が不足している、由良半島・高茂半島においても地域内での二次避難を可能にする。
- 体育館のような二次避難のための施設を新設するのではなく、仮設住宅を用いたグランピング場を整備するなど、さまざまな形の指定避難所が考えられる。

内海・柏に指定避難所を建設

柏・須ノ川・由良半島からの避難と他地域との繋がりを意識して柏の高台、新内海トンネル口辺りに新たな指定避難所を設置する。

旧西海中学校の指定避難所を強化

西海地域・旧西海中学校において、十分な収容スペース確保のため、旧西海中学校の裏手の土地において指定避難所の整備を行う。

三次避難

指定避難所を平常時の本来の目的のための施設に戻すために、三次避難計画を立てる。住民の二次避難・外部の支援者用に使われた学校の施設や宿泊施設を開放して、長期避難を望む住民に向け、より居住性の高い他の場所に移ってもらうようにする。また、三次避難所は、外部支援者のスムーズな受け入れにも寄与する。

現在の建物の長期活用

あまり使用されていないコミュニティセンターや指定避難所ではない廃校の活用や、アパートの空室や空き家などの民間住宅を「みなし仮設住宅」として利用する。

仮設住宅を設置する場所の確保

仮設住宅を設置するために長期間占有できる公園、駐車場、オープンスペースを事前に指定する。

（例: 城辺公園の駐車場、大森山キャンプ場の一部、松軒山公園の駐車場、将来御荘IC近くの防災休憩施設の土地など）

三次避難

輸送計画

三次避難がどのように行われるかは、被害の大きさやその時点でのインフラの復旧状況に大きく左右される。現場での混乱を防ぎ、スムーズな三次避難を実現するために、「三次避難輸送計画」を立てる。

- ①距離や被害予測などから、各仮設住宅場や三次避難所について、優先される指定避難所を決めておく
- ②みなし仮設として利用できる住宅の戸数を常に把握し、指定避難所ごとに入居できる戸数を割り当てる
- ③指定避難所ごとに三次避難希望者を募り、①②に従い割り当てる

長期のまちづくり

長期計画は、町の理想の未来を実現するための計画である。津波の被害を最小化し、速やかな復興を成し遂げられるまちにするとともに、各地域のポテンシャルをいかして愛南町全体として成長していくことを目指す。そのために我々は、高速道路の開通を見越した新しいまちの形を提案する。

にぎわいエリア

観自在寺が存在し、かつて南宇和郡の中心地であったが、津波リスクが高い御荘地域（平城）は、「にぎわいエリア」とする。

観自在寺前

観光客利用の多い観自在寺周辺をリノベーション重点区域としてかつての平城商店街の再生を目指す。

町民たちは集まって買い物や食事を楽しめる空間として利用

観光客は地域でとれた柑橘の地酒などを通して愛南の文化を楽しめる空間とする。

町民の日常と観光客の購買を結びつける拠点として銀行跡地のリノベーション的な活用を行う。普段は高校生の集まれる居場所として、特別なイベントの時などには活動の拠点として利用する。

南レク僧都川

賑わいエリアの中心として僧都川周辺を整備する。具体的には川沿い空間を広げて屋外活動として利用できるように整備し、河川敷には愛南町の町花であるツツジの植栽を行う。

住まいエリア

城辺IC周辺地域は、現在のまちの中心であり、津波リスクも低いことから、「住まいエリア」とする。町に必要な公共性の高い施設を町の中心である町役場から15分でアクセスできるように集約化して **「15分都市」** を目指す。具体的には城辺ICの近くにバスターミナルやカフェ子育て相談室を併設した **多機能図書館** を設ける。さらにファミリー層が移住しやすいように小さな子供が安心して遊べる公園等の施設の整備も行う。

自然共生エリア

深浦や一本松は豊かな自然を産業などに生かした「自然共生エリア」とする。深浦には大規模漁業拠点を設け、その場で町内の他の漁港でとれた水産物と共に競りを行える場所として利用する。アクセスのよい深浦を愛南の水産資源の物流の拠点として活用し、地産地消を促進する。一本松は他地域に比べて災害のリスクが低いため、避難が困難な高齢者向けのエリアとしてグループホームやホスピスなどを設ける。そのため一本松は小規模な拠点として生活に必要不可欠な施設を整備する。また、廃校予定中学校を活用したクラフトビールや地酒の醸造所、山のきれいな水を利用した半導体工場などの工場誘致、一本松ICの交通の便の良さを利用した物流拠点としての利用なども行う。さらに深浦と一本松では旧船を使った漁業支援も実施する。

観光エリア

災害リスクが高く居住地として向かないが、観光資源を多く有する西海・内海は観光客向けの整備を行う「観光エリア」とする。観光施設の中心宿泊施設は緊急時の避難所として利用できるようにする。

内海観光

柏北部の内海IC周辺地域に自然を感じられる宿泊施設を誘致する。須ノ川公園を使ったキャンプ体験、山道を使った由良半島サイクリング、旧真珠養殖場を使った少人数宿泊施設やダイビング体験などをツアーとしてパッケージ化して観光客が利用しやすいようにする。

西海観光

旧西海中学校をリノベーションして宿泊施設兼観光案内所として利用する。外泊の石垣の里を中心とした石垣ツアー、船越のグラスボートを利用した遊覧船ツアー、鹿島で無人島生活を体験できる無人島ツアーなどを観光客が利用しやすい形で企画する。

観光エリア

町内周遊ツアー

にぎわいエリアでは散策やショッピング、自然共生エリアでは漁業体験や農業体験を通じて体験学習、観光エリアでは絶景スポット巡りなどを通して観光客が愛南町の魅力を全方面で体感できるようなツアーを企画する。宿毛や宇和島との連携も想定し南宇和ツアーの中の一泊として利用できるようにする。

地域住民とのコミュニケーション

ここまでで、愛南町の現状と課題、そしてまちの将来像を含めた短期計画と長期計画について提案した。しかし、都市の計画は、単なる文章や政策の集積ではなく、その地域に暮らす人々の営みや価値観と深く結びついているべきである。地域住民の声を反映させることによって、より地域に寄り添った良い計画にすることができる。また、住民の皆様も主体的にまちを考えることによって、地域の未来を具体的にイメージし、自分事としてまちを捉え、町の未来への希望や期待を抱くことができるだろう。このように私たちは、「みんなとともに描く計画」を策定するために、「計画」と「地域」を結ぶための場をデザインする。

短期計画を促進する取り組み

指定避難所を中心とした「避難生活イベント」

指定避難所単位で中長期的な避難を想定した避難訓練イベントを行う。さらに、避難訓練イベントを活用し、まちの学生など若者が主体となり防災の発信する場としても活用する。このイベントにより、短期的な避難だけでなく、長期避難を想定した備えが可能になる。さらに、各地区や自主防災会のリーダー同士の交流の機会になるとともに、同じ避難所で生活する人々同士に交流できる場となる。

例・提案

- スタンプラリー
- パズルピース集め
- 宝探し
- フォトコンテスト
- オリエンテーション
- メモリーゲーム

長期計画を促進する取り組み

地域デザインミュージアム

- 私たちが考える「愛南の未来」の発信
愛南町は高速道路の整備に伴い、今後まちの将来像が大きく変化していくことが見込まれている。変化してくるまちの拠点、新たに整備される施設の提案と配置、まちの資源を活かした産業育成などを一つのマップに表現し、愛南の将来像を可視化する。
- ブース展示
 - 長期計画のなかでも、住民の方々と共に作り上げたい重要なポイントについては、ブースを設けてそれらについての詳細な展示をする。そこでは我々の提案だけでなく、住民の方が自分で考えたり意見を出したりできるインタラクティブな展示を行う。
 - ブースの例→旧西海中学校のリノベーション・にぎわいエリアの空間デザイン(僧都川沿いの川まちづくり, 観自在寺前通り)・多機能図書館のフロアデザイン

展示のイメージ

- 展示は観自在寺付近の空き家を活用して行う予定で、観自在寺前の通りや僧都川の河川敷は人々の憩いの場となるような工夫を施す。これにより、より多くの人に参加してもらうことや、将来このエリアはにぎわいのある楽しいエリアになるんだということをイメージしてもらう。

展示と連携したワークショップ

地域デザインミュージアムでは、我々の提案と、住民の方々に意見を伺いたいいくつかのポイントについて展示を行い、訪れた人が手を動かして自分で理想の町について考えられるような仕掛けも用意する。

さらに、各ポイントについてワークショップを行い、それを踏まえて我々が再設計したまちについて再び展示を行うことにより、住民の方とともに理想のまちを作り上げていく。